

茗溪社会教育研究

第12号

〈巻頭言〉		
上田 孝典	1
〈研究論文〉		
市川 昌	戦後民主主義とNHK教育放送の社会教育的機能	3
土井 進	唐澤富太郎の古道具屋への教育資料探求行と「唐澤博物館」の存在意義 ..	21
〈研究ノート〉		
手打 明敏	茨城県の戦後社会教育はどのように語られてきたか	33
	—社会教育関係月刊誌掲載記事を通して—	
〈茗溪社会教育研究会〉		
土井 進	唐澤富太郎の教育学研究	49
	—教育的真実の探究—	
〈卒業論文概要〉		
三枝 巧	地域に根差した公民館報の持つ役割と可能性	62
	—笠懸公民タイムスを事例に—	
根岸 創馬	社会教育事業としての長期集団宿泊体験活動の教育的意義と効果	64
	—つくば路100km徒歩の旅を事例として—	
〈修士論文概要〉		
小田島 協	知的障害児に対する性教育の意義と課題	66
	—教師の意識と包括的セクシュアリティ教育に着目して—	
楊 嘉琪	多文化共生社会における外国人労働者の教育に関する研究	71
	—日本語教室の視点から—	
頼 常優	新型コロナウイルス感染症を契機にした高齢者教育の展開に関する研究 ..	76
	—新しい「つながり方」の創出に着目して—	
〈彙 報〉	81
〈『茗溪社会教育研究』投稿規程〉	84
〈編集後記〉	85

令和3年6月

筑波大学 生涯学習・社会教育学研究室

編集後記

今年も、『茗溪社会教育研究』第12号を刊行することができました。本号では、江戸川大学の市川昌先生から戦後の教育放送の歴史を伝える研究論文をご投稿いただきました。また、東京福祉大学の手打明敏先生からは、茨城県の社会教育の歴史を記録する研究ノートをご寄稿いただきました。淑徳大学の土井進先生からは、新春の集いにおけるご講演録と、研究論文の二つをご寄稿いただきました。修士論文要旨と卒業論文要旨を含めて、今号も、貴重な論考の多い、非常に充実した内容となっております。

一方、この間に茗溪社会教育研究会でお世話になっていた伊藤俊夫先生がお亡くなりになられたことをお聞きしております。伊藤先生には新春の集いでご一緒し、暖かい一言をかけていただいております。伊藤先生のご冥福を、お祈り申し上げます。

さて、今年の茗溪社会教育研究会は、初めてのオンライン開催となりました。オンライン上でございますが、研究会のOB・OGの皆様との交流を通して、充実したひとときを持つことができました。ご参加くださいました皆様、誠にありがとうございました。

本号の作成にあたってご協力くださいました方々に感謝申し上げ、ここに編集後記といたします。今年度も研究室活動に精力的に取り組んでまいります。引き続き、皆さまのご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしく願いいたします。

(文責 橋田 慈子)

編集委員

上田 孝典 (筑波大学 人間系)

橋田 慈子 (筑波大学 人間系 特任研究員)

正木 僚 (筑波大学 人間総合科学研究群 教育学学位プログラム 2年次)

張 欣 (筑波大学 人間総合科学研究群 教育学学位プログラム 2年次)

茗溪社会教育研究 第12号

2021年6月30日 発行

発行者 筑波大学 生涯学習・社会教育学研究室
〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学人間系学系棟
